

公示

独立行政法人国際協力機構契約事務取扱細則(平成15年細則(調)第8号)に基づき下記のとおり公示します。

2026年4月8日

独立行政法人国際協力機構
契約担当役 理事

記

1. 公示件名:ラオス国国道9号線における橋梁架け替え計画準備調査(QCBS-ランプサム型)
2. 競争に付する事項:企画競争説明書第1章1. のとおり
3. 競争参加資格:企画競争説明書第1章3. のとおり
4. 契約条項:
「調査業務用」契約約款及び契約書様式を参照
5. プロポーザル及び見積書の提出:
企画競争説明書第1章2. 及び6. のとおり
6. その他:企画競争説明書のとおり

企画競争説明書 (QCBS-ランプサム型)

業務名称:ラオス国国道9号線における橋梁架け替え計画準備調査
(QCBS-ランプサム型)

調達管理番号:26a00081

【内容構成】

第1章 企画競争の手続き

第2章 特記仕様書案

第3章 プロポーザル作成に係る留意事項

本説明書は、「独立行政法人国際協力機構(以下「JICA」という。)」が、民間コンサルタント等を実施を委託しようとする業務について、当該業務の内容及び委託先を選定する方法について説明したものです。

本件業務の発注においては、競争参加者が提出するプロポーザルに基づき、その企画、技術の提案、競争参加者の能力等を総合的に評価した技術評価点と、同じく競争参加者が提出する見積書の見積額に基づいた価格評価点の総合点により評価・選定を行うことにより、JICAにとって最も有利な契約相手方を選定します。競争参加者には、この説明書及び貸与された資料に基づき、本件業務に係るプロポーザル及び見積書の提出を求めます。

なお、本説明書の第2章「特記仕様書案」、第3章2.「業務実施上の条件」は、プロポーザルを作成するにあたっての基本的な内容を示したものですので、競争参加者がその一部を補足、改善又は修補し、プロポーザルを提出することを妨げるものではありません。プロポーザルの提案内容については、契約交渉権者を行う契約交渉において協議し、最終的に契約書の付属として合意される「特記仕様書」を作成するものとします。

2026年4月8日

独立行政法人国際協力機構

国際協力調達部

第1章 企画競争の手続き

1. 競争に付する事項

(1)業務名称:ラオス国国道9号線における橋梁架け替え計画準備調査(QCBS-ランプサム型)

(2)業務内容:「第2章 特記仕様書案」のとおり

(3)適用される契約約款:

「調査業務用」契約約款を適用します。これに伴い、消費税課税取引と整理しますので、最終見積書において、消費税を加算して積算してください¹。(全費目課税)

(4)契約履行期間(予定):2026年6月～2027年7月

先方政府側の都合等により、本企画競争説明書に記載の現地業務時期、契約履行期間、業務内容が変更となる場合も考えられます。これらにつきましては契約交渉時に協議の上決定します。

(5)ランプサム(一括確定額請負)型

本件について、業務従事実績に基づく報酬確定方式ではなく、当該業務に対する成果品完成に対して確定額の支払を行うランプサム(一括確定額請負)型にて行います。

(6)前金払の制限

本契約については、契約履行期間が12ヵ月を超えますので、前金払の上限額を制限します。

具体的には、前金払については1年毎に分割して請求を認めることとし、それぞれの上限を以下のとおりとする予定です。なお、これは、上記(4)の契約履行期間を想定したものであり、契約履行期間が異なる場合等の限度額等につきましては、契約交渉の場で確認させていただきます。

1)第1回(契約締結後):契約金額の34%を限度とする。

2)第2回(契約締結後13ヵ月以降):契約金額の6%を限度とする。

(7)部分払の設定²

本契約については、1会計年度に1回部分払いを設定します。具体的な部分払の時期は契約交渉時に確認しますが、以下を想定します。

1)2026年度末(2027年2月頃)

¹ 電子入札対象案件では、電子入札システムに入力する金額は税抜きとなりますが、消費税課税取引ですので、最終見積書及び契約書は消費税を加算して作成してください。

² 各年度の進捗に伴う経費計上処理のため、実施済事業分に相当した支払を年度ごとに行う必要があります。

2. 担当部署・日程等

(1) 選定手続き窓口

国際協力調達部 契約推進第一課/第二課
電子メール宛先:outm1@jica.go.jp

(2) 事業実施担当部

社会基盤部 運輸交通グループ第一チーム

(3) 日程

本案件の日程は以下の通りです。

No.	項目	日程
1	資料ダウンロード期限	2026年4月14日 まで
2	企画競争説明書に対する質問	2026年4月15日 12時まで
3	質問への回答	2026年4月20日まで
4	本見積額(電子入札システムへ送信)、本見積書及び別見積書、プロポーザル等の提出	2026年4月24日 12時まで
5	プレゼンテーション	行いません。
6	プロポーザル審査結果の連絡	見積書開封日時の2営業日前まで
7	見積書の開封	2026年5月20日 11時
8	評価結果の通知	見積書開封日時から1営業日まで
9	技術評価説明の申込(順位が第1位の者を除く)	評価結果の通知メールの送付日の翌日から起算して7営業日まで (申込先: https://forms.office.com/r/6MTyT96ZHM) ※2023年7月公示から変更となりました。

3. 競争参加資格

(1) 各種資格の確認

以下については「コンサルタント等契約におけるプロポーザル作成ガイドライン」最新版を参照してください。

(URL: <https://www.jica.go.jp/announce/manual/guideline/consultant/20220330.html>)

- 1) 消極的資格制限
- 2) 積極的資格要件
- 3) 競争参加資格要件の確認

(2)利益相反の排除

特定の排除者はありません。

(3)共同企業体の結成の可否

共同企業体の結成を認めます。ただし、業務主任者は、共同企業体の代表者の者として認めます。

なお、共同企業体の構成員(代表者を除く。)については、上記(1)の2)に規定する競争参加資格要件のうち、1)全省庁統一資格、及び2)日本登記法人は求めません(契約交渉に際して、法人登記等を確認することがあります)。

共同企業体を結成する場合は、共同企業体結成届(様式はありません。)を作成し、プロポーザルに添付してください。結成届には、代表者及び構成員の全ての社の代表者印又は社印は省略可とします。また、共同企業体構成員との再委託契約は認めません。

4. 資料の配付

資料の配付について希望される方は、下記 JICA ウェブサイト「コンサルタント等契約の応募者向け 国際キャリア総合情報サイト PARTNER 操作マニュアル」に示される手順に則り各自ダウンロードしてください。

<https://partner.jica.go.jp/Contents/pdf/JICAPARTNER%E6%93%8D%E4%BD%9C%E3%83%9E%E3%83%8B%E3%83%A5%E3%82%A2%E3%83%AB%E6%A5%AD%E5%8B%99%E5%AE%9F%E6%96%BD%E5%A5%91%E7%B4%84.pdf>

提供資料:

- ・「第3章 プロポーザル作成に係る留意事項」に記載の配付資料

5. 企画競争説明書に対する質問・回答及び説明書の変更

(1)質問提出期限

1)提出期限:上記2.(3)参照

2)提出先 :[http:// https://forms.office.com/r/ExfrS0aKEh](http://https://forms.office.com/r/ExfrS0aKEh)

注1) 公正性・公平性確保の観点から、電話及び口頭でのご質問は、お断りしています。

(2)回答方法

上記2.(3)日程の期日までに以下の JICA ウェブサイトに掲載します。

(URL:

<https://www2.jica.go.jp/ja/announce/index.php?contract=1>)

6. プロポーザル等の提出

(1)提出期限:上記2.(3)参照

(2)提出方法

国際キャリア総合情報サイト PARTNER を通じて行います。

(<https://partner.jica.go.jp/>)

具体的な提出方法は、JICA ウェブサイト「コンサルタント等契約の応募者向け 国際キャリア総合情報サイト PARTNER 操作マニュアル」をご参照ください。

([https://partner.jica.go.jp/Contents/pdf/JICAPARTNER %E6%93%8D%E4%BD%9C%E3%83%9E%E3%83%8B%E3%83%A5%E3%82%A2%E3%83%AB %E6%A5%AD%E5%8B%99%E5%AE%9F%E6%96%BD%E5%A5%91%E7%B4%84.pdf](https://partner.jica.go.jp/Contents/pdf/JICAPARTNER%E6%93%8D%E4%BD%9C%E3%83%9E%E3%83%8B%E3%83%A5%E3%82%A2%E3%83%AB%E6%A5%AD%E5%8B%99%E5%AE%9F%E6%96%BD%E5%A5%91%E7%B4%84.pdf))

ただし、入札書は電子入札システムを使用して行います。

1)プロポーザル

- ① 電子データ(PDF)での提出とします。
- ② プロポーザルはパスワードを付けずに格納ください。

2)本見積額

- ① 電子入札システムを使用して、別見積指示の経費の金額を除く金額(消費税は除きます。)を、上記2.(3)日程の提出期限までに電子入札システムにより送信してください。
- ② 上記①による競争参加者の本見積額により価格点を算出し、総合点を算出して得られた交渉順位の結果を別途、全ての競争参加者に通知します。この通知は電子入札システムの機能によらず、契約担当者等から電子メールにより行います。この際に、交渉順位1位となった競争参加者には上記の本見積額に係る見積書(含む内訳書)にかかるパスワードを求めます。

3)本見積書及び別見積書、別提案書

本見積書、別見積書(第3章4.(3)に示す項目が含まれる場合のみ)、及び別提案書(第3章4.(2)に示す上限額を超える提案がある場合のみ)はパスワードを設定したPDFファイルとして格納してください。なお、パスワードは、JICA 国際協力調達部からの連絡を受けてから e-koji@jica.go.jp へ送付願います。

別見積については、「第3章4.(3)別見積について」のうち、1)の経費と2)~3)の上限額や定額を超える別見積りが区別できるようにしてください(ファイルを分ける、もしくは、同じファイルでも区別がつくようにしていただくよう願います)。

(3)提出書類

1)プロポーザル・見積書・別見積書

2)別提案書(第3章4.(2)に示す上限額を超える提案がある場合のみ)

(4)電子入札システム導入にかかる留意事項

- 1) 作業の詳細については電子入札システムポータルサイトをご確認ください。
(URL:<https://www.jica.go.jp/announce/notice/ebidding.html>)
- 2) 電子入札システムを利用しない入札は受け付けません。

7. 契約交渉権者の決定方法

(1)評価方式と配点

プロポーザルに対する技術評価点と見積書に対する価格評価点を合算して評価します。技術評価点と価格評価点を合算した総合評価点を100点満点とし、**配点を技術評価点 90 点、価格評価点 10 点とします。**

(2)評価方法

1)技術評価

「第3章 プロポーザル作成に係る留意事項」の別紙「プロポーザル評価配点表」の項目ごとに、各項目に記載された配点を満点として、以下の基準により評価し、合計点を技術評価点とします。評価の具体的な基準や評価に当たっての視点については「コンサルタント等契約におけるプロポーザル作成ガイドライン」より以下を参照してください。

- ① 別添資料1「プロポーザル評価の基準」
- ② 別添資料2「コンサルタント等契約におけるプロポーザル評価の視点」
- ③ 別添資料3「業務管理グループ制度と若手育成加点」

また、第3章4.(2)に示す上限額を超える提案については、プロポーザルには含めず(プロポーザルに記載されている提案は上限額内とみなします)、別提案・別見積としてプロポーザル提出日に併せて提出してください。この別提案・別見積は評価に含めません。契約交渉順位 1 位になった場合に、契約交渉時に別提案・別見積を開封し、契約交渉にて契約に含めるか否かを協議します。

技術評価点が基準点(100 点満点中 60 点を下回る場合には不合格となります。**なお、合否の結果をプロポーザルに記載のメールアドレス宛にお知らせします。不合格の場合、電子入札システムに送信いただいた見積額の開札は行いません。**

(URL: <https://www.jica.go.jp/announce/manual/guideline/consultant/20220330.html>)

2) 評価配点表以外の加点

評価で 60 点以上の評価を得たプロポーザルを対象に以下について加点します。

① 業務管理グループ制度及び若手育成加点

本案件においては、業務管理グループ(副業務主任者 1 名の配置)としてシニア(46 歳以上)と若手(35~45 歳)が組んで応募する場合(どちらが業務主任者でも可)、一律2点の加点(若手育成加点)を行います。

3) 価格評価

価格評価点は、①最低見積価格の者を 100 点とします。②それ以外の者の価格は、最低見積価格をそれ以外の者の価格で割り 100 を乗じます(小数点第三位以下を四捨五入し小数点第二位まで算出)。具体的には以下の算定式により、計算します。

① 価格評価点: 最低見積価格 = 100 点

② 価格評価点: (最低見積価格 / それ以外の者の価格) × 100 点

4) 総合評価

技術評価点と価格評価点を 90:10 の割合で合算し、総合評価点とします。総合評価点は、技術評価点分及び価格評価点分をそれぞれ小数点第二位まで計算し、合算します。

$$(\text{総合評価点}) = (\text{技術評価点}) \times 0.9 + (\text{価格評価点}) \times 0.1$$

(3) 見積書の開封

価格評価点の透明性確保のため、電子入札システムを介して提供された本見積額(消費税抜き)は上記2.(3)日程に記載の日時にて開封します。また、電子入札システムへの送信額は消費税抜き価格とさせていただきます。電子入札システムにて自動的に消費税 10% が加算されますが、評価は消費税抜きの価格で行います。

なお、技術評価の確定に時間を要し、見積額の開封の日時が延期されることもあります。その場合、競争参加者に対し、再設定された日時を連絡します。

※不合格の場合、電子入札システムへ送信いただいた見積額は開札しません。

(4) 契約交渉権者の決定方法

- 1) 総合評価点が最も高い競争参加者を契約交渉権者として決定します。
- 2) 総合評価点が同点であった場合は、技術評価点の高い競争参加者を優先します。
- 3) 最も高い総合評価点が複数あり、更にその内複数の技術評価点が同点であった場合は、くじ引きにより契約交渉権者を決定します。
- 4) 応募者選定において、技術評価点及び価格評価点の合計点(総合評価点)が最も高い応募者の当該の見積額では契約に適合した履行がされないおそれがある場

合に、交渉順位の決定を保留して、その者が契約の相手方として適当か否かを調査します。(低見積価格調査の実施)

低見積価格調査の結果、契約に適合した履行が可能と認められる場合には契約交渉権者として決定します。

8. 評価結果の通知・公表と契約交渉

評価結果(順位)及び契約交渉権者を上記2.(3)日程の期日までにプロポーザルに記載されている電子メールアドレス宛にて各競争参加者に通知します。

9. 資金協力本体事業への推薦・排除

本件業務は、無償資金協力事業を想定した協力準備調査に当たります。したがって、本件事業実施に際して、以下のとおり取扱われます。

(1)本件業務の受注者は、本業務の結果に基づき JICA による無償資金協力が実施される場合は、設計・施工監理(調達補助を含む。)コンサルタントとして、JICAが先方政府実施機関に推薦します。ただし、受注者が無償資金協力を実施する交換公文(E/N)に規定する日本法人であることを条件とします。本件業務の競争に参加するものは、「コンサルタント等契約におけるプロポーザル作成ガイドライン」に示されている様式5(日本法人確認調書)をプロポーザルに添付して提出してください。ただし、同調書は本体事業の契約条件の有無を確認するもので、本件業務に対する競争参加の資格要件ではありません。

(2)本件業務の受注者(JV構成員及び補強として業務従事者を提供している社の他、業務従事者個人を含む。)及びその親会社／子会社等は、本業務(協力準備調査)の結果に基づき JICA による無償資金協力が実施される場合は、設計・施工監理(調達補助を含む。)以外の役務及び生産物の調達から排除されます。

10. フィードバックのお願いについて

JICA では、公示内容の更なる質の向上を目的として、競争参加いただいたコンサルタントの皆様からフィードバックをいただきたいと考えています。つきましては、お手数ですが、ご意見、コメント等をいただけますと幸いです。具体的には、選定結果通知時に、入力用 Forms をご連絡させていただきますので、そちらへの入力をお願いします。

第2章 特記仕様書案

本特記仕様書(案)に記述されている「脚注」及び本項の「【1】本業務に係るプロポーザル作成上の留意点」については、競争参加者がプロポーザルを作成する際に提案いただきたい箇所や参考情報を注意書きしたものであり、契約に当たって、契約書附属書Ⅱとして添付される特記仕様書からは削除されます。

また、契約締結に際しては、契約交渉相手方のプロポーザルの内容を適切に反映するため、契約交渉に基づき、必要な修正等が施された上で、最終的な「特記仕様書」となります。

【1】 本業務に係るプロポーザル作成上の留意点

1. 企画・提案に関する留意点

- ▶ プロポーザルに一般的に記載されるべき事項、実施上の条件は「第3章 プロポーザル作成に係る留意事項」を参照してください。
- ▶ 応募者は、本特記仕様書(案)に基づく業務を行うにあたっての、効果的かつ効率的な**実施方法及び作業工程を考案し**、プロポーザルにて提案してください。
- ▶ プロポーザルにおいては、本特記仕様書(案)の記載内容と異なる内容の提案も認めます。プロポーザルにおいて代替案として提案することを明記し、併せてその優位性／メリットについての説明を必ず記述してください。また、応募者がプロポーザルの中で行った提案について特筆すべき箇所があれば、その記述箇所を、発注者が指定した項目とは分けてリストに記載ください。
- ▶ 現地リソースの活用が現地業務の効率的、合理的な実施に資すると判断される場合には、業務従事者との役割分担を踏まえた必要性和配置計画を含む業務計画を、プロポーザルにて記載して下さい。現行のコンサルタント等契約制度において、現地リソースの活用としては以下の方法が採用可能です。
 - ① 特殊傭人費(一般業務費)での傭上(主に個人)
 - ② 直接人件費を用いた、業務従事者としての配置(第3章「2.業務実施上の条件」参照)
 - ③ 共同企業体構成員としての構成(法人)(第1章「3.競争参加資格」参照)
- ▶ 再委託することにより業務の効率・精度・質等が向上すると考えられる場合は、当該業務について経験・知見を豊富に有する機関・コンサルタント・NGO に再委託して実施することを認める場合があります。本特記仕様書(案)記載の項目・規模を超えて再委託にて実施することが望ましいと考える業務がある場合は、理由を付してプロポーザルにて提案してください。

- プロポーザル作成にあたっては、本特記仕様書(案)に加えて、第3章に示す関連資料を参照してください。

2. プロポーザルで特に具体的な提案を求める内容

- 本業務において、特に以下の事項について、応募者の知見と経験に基づき、第3章1.(2)「2)業務実施の方法」にて指定した記載分量の範囲で、次のリストの項目について、具体的な提案を行ってください。詳細については本特記仕様書(案)を参照してください。

No.	提案を求める事項	特記仕様書(案)での該当条項
1	2 橋の架橋位置、橋種および施工方法の選定の考え方・検討手法	第3条 実施方針及び留意事項 (12)架橋位置、橋梁形式の比較検討、 (13)効率的な施工工程と工程監理体制
2	事業効果を定量的・定性的に表現するため必要な交通状況等の基礎情報の収集及び解析手法の提案	第4条 業務の内容 (29)事業の位置づけ及び事業効果の整理
3	本事業をジェンダー案件とする際に調査すべき課題及び、その解決・評価方法	第4条 業務の内容 (7)ジェンダー視点に立った調査・計画

【2】 特記仕様書(案)

(契約交渉相手方のプロポーザル内容を踏まえて、契約交渉に基づき、最終的な「特記仕様書」を作成します。)

第1条 業務の目的

「第2条 業務の背景」に記載する事業について、「第3条 実施方針及び留意事項」を踏まえ、「第4条 業務の内容」に記載される業務を遂行し、調査の中で特定された事業(以下、「本事業」という。)を無償資金協力として実施する必要性や妥当性を精査するとともに、適切な概略設計・事業計画を策定し、概略事業費の積算を行うことを目的とする。

第2条 業務の背景

別紙1のとおり。

第3条 実施方針及び留意事項

(1) 無償資金協力事業の検討資料としての位置づけ

- 本業務の成果は、本事業を対象とする無償資金協力事業の検討資料として用いられる。このため、事業内容の計画策定については、調査過程で随時十分発注者と協議し、承認を得ること。
- 報告書や各種資料の作成に当たっては、発注者が提示する資料等に基づいたものと

すること。

- 本業務で検討・策定した事項が相手国政府・実施機関への一方的な提案とならないよう、相手国政府・実施機関と十分な合意形成を行い、実現可能かつ具体的な内容とすること。
- 本事業の本邦での検討過程において、事業内容が本業務の結果とは一部異なる結論となる可能性があるため、相手国関係者に本業務の調査結果がそのまま無償資金協力事業として決定されるとの誤解を与えないよう留意すること。
- JICA サステナビリティ方針に基づく全新規事業をパリ協定に整合する形で実施することを目指す等の目標を踏まえ、可能な範囲で、建設する建造物の施工・維持管理段階での温室効果ガス排出量の最少化、気候変動の影響に対する強靱化を行うよう留意すること。

(2) 参考資料

- 共通仕様書第 9 条に示す以外で、本業務で参考とする資料を以下に示す。

① 公開資料

(ア) 設計・積算にかかるガイドライン等 (以下、「設計・積算にかかるガイドライン等」という。)

協力準備調査設計・積算マニュアル(試行版)

同「補完編(土木分野)」(2023 年 4 月)

(イ) 環境社会配慮ガイドライン (以下、「JICA 環境社会ガイドライン」という。)

国際協力機構環境社会配慮ガイドライン(2022 年 1 月)

(ウ) 気候変動対策ツール(以下、「気候変動対策ツール」という。)

気候変動対策支援ツール(JICA Climate-FIT:適応策 Adaptation)

JICA 事業におけるジェンダー主流化のための手引き

(エ) その他

JICA 不正腐敗防止ガイダンス

無償資金協力にかかる報告書等作成のためのガイドライン

コンサルタント等契約における物品・機材の調達・管理ガイドライン 最新版

コンサルタント等契約における現地再委託契約ガイドライン 最新版

ソフトコンポーネント・ガイドライン

ODA 建設工事安全管理ガイダンス(以下、「安全管理ガイダンス」という。)

資金協力事業 開発課題別の指標例(以下、「開発課題別の指標例」という。)

進捗報告・Project Monitoring Report(PMR)

JICA グローバルアジェンダ(課題別事業戦略)

(3) 計画策定のプロセス

- 本業務では、設計・積算方針会議前の現地調査、および同会議を受けた概略設計協議に関する現地調査を実施する。

本業務では、設計・積算方針会議前の現地調査を段階的に実施する。各現地調査の内容は以下のとおり。

(ア) 第1回現地調査

- 調査対象とする本プロジェクトの内容(概要)及び検討性の方向性について、実施機関と確認、合意することを目的とする。
- 施工計画、橋梁計画、設計条件の検討に必要な調査(自然条件調査(地形測量、地質調査、水文調査等)、環境社会配慮関連調査、交通量調査、調達事情調査等)の実施、及び調査報告書案の作成に必要な協議、情報収集を行う。
- 時期は、2026年6月を想定している。

(イ) 第2回現地調査

- 概略設計、調査報告書案を先方関係者に説明の上、内容について協議を行い、基本的な了解を得ることを目的とする。
- 時期は、2027年3月頃を想定している。

- 以下の段階においては、日本側関係者が出席する会議を開催し、関係者と議論して内容を検討する。

(ア) 初回現地調査派遣前

- 既存資料等の分析を踏まえ、現地調査の計画等につき「インセプション・レポート」に取りまとめ、方針を検討する。

(イ) 概略設計協議前の現地調査帰国時

- 現地調査結果を記述した「現地調査結果概要」を取りまとめ、これを基に、基本的な計画・設計の方向性を検討する。

(ウ) 概略設計協議に関する現地派遣前

- 計画の内容を取りまとめた「協力準備調査報告書(案)」に基づき計画内容を検討する。

(4) 発注者への事前説明

- 説明資料等の中間的な成果を含む本業務の成果について相手国政府・実施機関に提示

する場合には、発注者に事前に説明し、その内容についてすり合わせること。

- 相手国政府・実施機関との間で調査方針等について意見の相違があり、その克服が困難と思われる場合には速やかに発注者に報告し、対応方針について指示を受けること。
- 発注者と打合せ後、受注者は対応方針等を取りまとめ、発注者の確認を取ること(必要に応じて打合簿を作成すること)。

(5) 関連調査等から得られる情報のレビュー及び活用

- 既存のデータを最大限活用することとし、既存データが存在しない、既存データでは十分な情報が得られない際に、該当する業務を行うこと。
- 業務に先立って以下に列挙する先行調査・既存事業が実施されているところ、かかる調査・事業から得られる情報を最大限に活用し、重複がないよう効率的な調査を行うこと。
- 先行調査・既存事業一覧は以下のとおり。
 - ① 「ラオス国九号線橋梁改修計画」(2016年G/A締結)
 - ② 「ラオス国橋梁維持管理能力強化プロジェクト」(2020年～2024年)
 - ③ 「ラオス国道路アセットガバナンス改善プロジェクト」(2025年～現在)
- 上記も含めて類似事業の設計及び施工時の課題、問題点、及び解決方法等について確認し、調査の効率化に努める。
- 上述の事業も含めた類似事業の教訓も踏まえて、事業完了後の実施体制について検討すること。

(6) 本業務における地理的な対象範囲

- 本業務における自然条件調査・社会条件調査・事業実施スケジュール・環境社会配慮等の検討においては、事業対象となる構造物等を建設・設置する場所のみならず、本事業を実施するに当たって必要かつ実施機関等相手国側により提供されるべき用地についても考慮に含まれることに留意すること。環境社会配慮については、建設用地・相手国側から提供される用地のみならず、事業による環境社会影響が及ぶ地域も調査対象となることに留意すること。

(7) 環境社会配慮

- 本業務においては、相手国政府・実施機関の定める環境社会配慮に係る法令・許認可手続きや基準等について、JICA 環境社会ガイドライン上遵守が求められるものと大きな乖離がないことを検証する。
- 初期環境調査報告書(相手国法に基づき求められる場合は環境アセスメント報告書)案、住民移転計画案の作成支援に係る検討を行う。

➤ JICA 環境社会配慮カテゴリ分類:B

本事業は、「国際協力機構環境社会配慮ガイドライン」(2022年1月公布)にかかげる橋梁セクターのうち大規模なものに該当せず、環境への望ましくない影響が重大でないと判断され、かつ、同ガイドラインに掲げる影響を及ぼしやすい特性及び影響を受けやすい地域に該当しないため。

(8) 調達方式の検討方針(現地企業活用型による実施の場合)

本業務では当該項目は適用しない。

(9) クラスタ事業戦略での本件の位置づけ

本業務はクラスタ事業では以下の点に留意する。

- 本事業は、発注者の進める JICA グローバル・アジェンダ(課題別事業戦略)³の運輸交通に位置づけられる。本事業のインパクトの最大化のため、相手国内および周辺国における発注者の実施する既存事業との具体的な連携の可能性を追求すること。また、それら既存事業や関連調査の情報を最大限活用し、効果的な調査を実施する。想定する既存事業・関連調査は以下のとおり。

- ① 無償資金協力「国道九号線橋梁改修計画」(2016年G/A締結)
- ② 技術協力「橋梁維持管理能力強化プロジェクト」(2020年~2024年)

(10) 発注者の既存事業との連携可能性の検討

本事業の効果的な実施のため、相手国内における発注者の実施する既存事業(有償資金協力事業、無償資金協力事業、技術協力事業、民間連携事業等)との具体的な連携の可能性(共同での研修やセミナーの実施、共同研究等)を追求すること。

- 想定する既往案件を以下に列挙する。

- ① ラオス国道路アセットガバナンス改善プロジェクト(2025年~現在)
- ② 経済社会開発計画(橋梁補修資機材)

(11) 相手国関係機関の調整

本事業の効果的な実施のため、以下の対応を行う。

- 事業実施体制を構成する組織に加え、関係する河川等の関係機関(必要に応じ)も交え調査及び事業の進め方について検討を行うこと。

(12) 架橋位置、橋梁形式の比較検討

- 本事業は、ホワイコック1号橋(Houay Kok 1)及びホワイタポアン橋(Houay Ta

³ 保健医療、紛争、気候変動等、複雑化する開発課題に挑むため、20の「JICA グローバル・アジェンダ(課題別事業戦略)」を設定し、中でも重点的に取り組む事業のまとまりを「クラスタ事業戦略」として、取り組みを強化しています。

Pouan)の 2 橋の架け替えを実施するものである。対象橋梁の建設にあたっては、自然条件調査から設定される設計条件等を基に、接続道路の線形・架橋位置・橋梁形式を検討し、架橋位置および橋梁形式についてはそれぞれ代替案を複数提案した上で最適案を提示するものとする。また各代替案については、概略事業費、耐久性、施工性、維持管理性、環境社会配慮上の影響等を整理し、比較検討を行う。また、対象となる橋梁の周辺には家屋等の事業を実施する上で支障となる可能性がある物件があるため、現場条件を考慮した架け替え位置及び迂回路の位置を検討すること。

(13)効率的な施工工程と工程監理体制

- 対象橋梁が位置する国道 9 号線の交通量は、約 4,400 台/日(その内、大型車交通量が 1,240 台/日)とラオス国においては交通量が多い路線となっている。施工時の迂回路の建設や切り回し等について、最小限の影響となるような施工計画を策定すること。建設中は交互通行となる交通切り回しを行うことから、早期交通回復のための工期短縮を念頭においた施工工程を検討すること。
- 対象橋梁の内、ホワイタポアン橋(Houay Ta Pouan)は谷底が深く通常の橋梁と比べ施工工程が長くなる可能性がある。特に橋脚や足場の設置が困難となるな可能性があり、仮設工事や搬入計画等に時間とコストを要することが考えられるため、効率的な施工工程や安全対策を含む工程管理体制及び設計条件等を検討すること。

(14)支障物件

- 無償資金協力「ラオス国国道 9 号線橋梁改修計画」において、国道 9 号線上に位置する 2 橋梁の架け替えを実施している。現地調査の結果、2 橋梁の周辺に軍施設の光ファイバーが敷設されていることが確認されている。また、9 号線沿いは中国の支援で光ファイバーが敷設されていることも確認されているため、本事業の現地調査でも留意すること。
- 本事業の対象橋梁である 2 橋梁に水道管と思われる管が添架されている。現在、使用されているかどうかは不明であるが、現地調査で既存橋梁前後の埋設物や添架物の調査を行い、支障物件の種別や埋設位置を確認し、支障物件の移設計画、予算措置の検討の基礎資料とする。

(15)無償資金協力(経済社会開発計画(橋梁補修資機材))との連携

- 日本国は国道 9 号線の損傷が著しい橋梁(本事業の対象橋梁を除く)に対し、H 型鋼橋梁主桁、炭素繊維補強材等を供与し、ラオス国が補修及び上部工の架け替えを実施する予定である。経済社会開発計画の調達スケジュールやラオス国の施工スケジュール等について情報収集を行い、本無償資金協力の施工計画や実施工程に反映すること。

(16)9号線橋梁の今後の対応について

- 国道9号線上の51橋梁に対し、技術協力プロジェクト「橋梁維持管理能力強化プロジェクト」(2020年～2024年)期間中に実施機関が目視点検を実施した。その結果、健全度が低いと判断された17橋(※経済社会開発計画で改修予定の橋梁を除く)について、「道路アセットガバナンス改善プロジェクト(2025年～2029年)」において目視検査および技術的な確認・評価を行った。これらの評価結果に基づき、緊急性が高い橋梁への対応として、本無償資金協力による2橋の架け替え、経済社会開発計画による対応(8橋を予定、詳細は(15)に記載)およびラオス側による対応(2024年に1橋対応済)を予定している。
- なお、上記以外に緊急対応を要する損傷を抱える橋梁は確認されていない。しかし、その他の橋梁についても今後損傷が進行し、架け替え等の大規模補修が必要となる可能性がある。このため現地調査を通じて、架け替え・補修に必要なラオス側の財政面や技術力の状況、またWBやADBなど他ドナーからの支援可能性についても併せて調査すること。

(17)本邦技術の活用可能性

- (12)のとおり橋梁形式の選定にあたっては、現地調査を踏まえた上で、概略事業費、耐久性、施工性、維持管理性、環境・社会配慮への影響など複数の観点から比較・評価を行い、総合的に最適な形式を選定する。その際、合成床版橋、PCコンポ橋、耐候性鋼材など、防錆技術を含む本邦の橋梁技術を活用できる可能性がある。現地調査では、これらの本邦技術が適用可能かどうかについても確認する。

第4条 業務の内容

(1)業務計画書の作成

- ① 要請書及び関連資料の内容を調査した上で、業務全体の方針・方法及び作業計画を検討し、共通仕様書第6条に従い、業務計画書を作成する。
- ② 業務計画書を発注者に提出して承諾を得る。

(2)インセプション・レポートの作成・説明

- ① 業務計画書の内容を踏まえて、インセプション・レポート(質問票含む)を作成する。
- ② 現地調査の冒頭に、発注者側からの調査団員と協力し、相手国政府・実施機関等にインセプション・レポートの内容を説明する。

(3)事業の背景・経緯・目的・内容等の整理

- 本事業の背景や必要性を整理するために必要な情報収集、分析を行う。

- 相手国の開発計画、当該セクターの上位計画・関連政策等の上位計画における本事業の位置づけ等
- 本事業に関連する我が国及び他ドナーや国際開発援助機関の援助動向、事業内容及び教訓等

(4)自然条件調査

概略設計・施工計画・積算について必要な精度を確保し、また事業により新設・拡張・附帯される施設・設備が周囲の自然に及ぼす影響を適切に予測し、その影響を回避／最小化する設計・施工を検討するため、以下に示す自然条件調査を行う⁴。

① 気象・水理・水文調査(机上調査、現地調査)

プロジェクトサイトにおける降雨量等の気象データ及び河川水位、流量、流速、河道河床変動、洪水痕跡水位等の調査を実施する。

② 地形測量(1/1000)

ホワイコック1号橋とホワイタポアン橋のそれぞれに下記を測量を予定している。

- 平面地形測量:架橋計画地点を中心に延長200m×幅50m
- 河川縦断測量:架橋計画地点を中心に上流100m、下流100m
- 河川横断測量:測量幅80m×10か所程度
- 路線測量:架橋計画地点から現況道路につなぐ取付道路を設計するための測量。

③ 地質調査

地表調査、ボーリング調査、標準貫入試験、土質試験、材料試験等を実施する。ボーリング調査及び標準貫入試験は7か所(ホワイコック1号橋:4箇所、ホワイタポアン橋:3箇所)を想定している。取付道路については、道路設計のために土質調査(路床CBR、路盤材料試験)及び骨材試験、試掘(地下水位調査を含む)の実施を想定している。

④ 支障物件等調査

橋梁位置及び施工箇所に支障のある各種ユーティリティの確認や移設計画等の協議を行う。

(5)サイト状況調査

設計・施工計画、あるいは設置・維持管理計画の検討に必要な条件を把握するため、対象サイトの周辺状況に関する調査を行う(資機材の整備状況に関する調査を行う)。

⁴ ここに記載している数量や調査内容はあくまで目安であり、下記を超えた数量や調査内容について、プロポーザルで提案することに問題はない。

① 既存橋状況調査

既存橋の利用状況、損傷状況、既存橋の撤去時期や方法、撤去費用、維持管理体制等

② 事業予定地の状況調査

建設用地内及び工事影響範囲にある上下水道、電気、電話回線、ガス、下水道等、露店の状況、施工スペースの確認(建設ヤードの調査も含む)等

③ 交通量調査及び需要予測

既存橋梁の周辺の交通量データを入手するとともに、対象道路について交通量調査を実施し、交通需要予測を実施する⁵。

④ 支障物件等調査

橋梁位置及び施工箇所に支障のある各種ユーティリティの確認や移設計画等の協議を行う。

(6)環境社会配慮にかかる調査

本業務では以下の対応を行う。

① 初期環境調査

(ア) 「国際協力機構環境社会配慮ガイドライン」(2022年1月交付)(以下、「JICA環境社会ガイドライン」という)に基づき、初期環境調査(Initial Environmental Examination)として、環境社会配慮面も含めた代替案の比較検討を行い、重要な環境影響項目の予測・評価、緩和策、モニタリング計画案の作成を行う。報告書の作成に当たっては、「環境社会配慮カテゴリ B 報告書執筆要領(2025年9月)」に基づくこととする。また、相手国等(関係官庁・機関)と協議の上、調査結果を整理する形で、「JICA環境社会ガイドライン」<参考資料>の環境チェックリスト案を作成する。

(イ) 環境社会配慮に係る主な調査項目は、以下のとおり。

ア)相手国の環境社会配慮制度・組織の確認

(a)環境社会配慮(環境アセスメント、情報公開、労働環境(労働安全、労働者の権利を含む)等)に関連する法令や基準等

(b)「JICA環境社会ガイドライン」との乖離及びその解消方法

(c)関係機関の役割

イ)スコーピング(検討すべき代替案と重要な及び重要と思われる評価項目の範囲並びに調査方法について決定すること)の実施

ウ)ベースラインとなる環境社会の状況の確認(汚染対策項目、自然環境、自然保護・文化遺産保護の指定地域、土地利用、先住民族の生活区域及び非自発的住民移転・用地取得、労働環境(労働者の権利を含む)等を含む社会経済社会状況等に関する情

⁵ 交通量調査の地点、調査期間、車種分類及び交通量予測の手法についてはプロポーザルにて提案する。

報収集。特に汚染対策等に関しては、既存の有効な定量的データ等がない場合(例えばデータが古く、現況を示さない場合等。一般的には環境面は 5 年、社会面は 3 年程度)、必要に応じて現地での測定に基づくデータ収集も含む。)

エ)影響の予測

オ)影響の評価及び代替案の比較検討

カ)緩和策(回避・最小化・軽減・緩和・代償)の検討

キ)環境管理計画案・モニタリング計画案(実施体制、方法、費用、モニタリングフォームなど)の作成

ク)予算、財源、実施体制の明確化

ケ)ステークホルダー分析の実施とステークホルダー協議の開催支援(実施目的、参加者、協議方法・内容等の検討。「JICA 環境社会ガイドライン」別紙 5 を参照のこと。)なお、ステークホルダー協議は①第一回現地調査、②環境社会配慮に係る DFR 及び EIA 案作成時の 2 回開催することとする。但し第二回ステークホルダー協議は先方実施機関及び現地補助員にて開催し、調査団は本邦から支援する。

コ)プロジェクトから直接排出される温室効果ガス排出量が年間 25,000CO₂ 換算トン以上の場合供用段階における排出量推計

(ウ)相手国法制度上、環境アセスメント報告書(又は IEE 報告書)の作成が求められる場合は、上記の調査結果に基づき環境アセスメント報告書案(又は IEE 報告書案)を作成する。

② 用地取得・住民移転計画

(ア)「JICA 環境社会ガイドライン」、世界銀行 ESS 5 及び相手国政府の住民移転計画に関するガイドラインに基づき、住民移転計画案の作成を行う。住民移転計画案には、世界銀行 ESS 5 Annex 1 に記載ある内容及び以下ア)~サ)を含めることとする。具体的な作成手順・調査内容・方法については、世界銀行 ESS 5 の Guidance Note for Borrowers や世界銀行 Involuntary Resettlement Source Book Planning and Implementation in Development Projects も参照する。また、作成に際し、「カテゴリ B 案件報告書執筆要領(2025 年 9 月)」を参考にする。

本事業のためにすでに用地取得あるいは住民移転が行われた土地がある場合、その過程での住民協議方法や補償水準について確認の上、「JICA 環境社会ガイドライン」と乖離がある場合、その解消策を提案する。なお、本業務については、現地の事情に精通していることが必須であるため現地再委託や現地傭人にて実施することを認める。

ア) 住民移転に係る法的枠組みの分析

(a) 用地取得や住民移転に係る相手国等の法制度と「JICA 環境社会ガイドライ

ン」の乖離を分析し、その乖離を埋めるために必要な対応策を提案する。特に、補償や生活再建対策の受給権者要件、補償基準の公開、補償金の算定方法、合意される個別補償内容の文書化や対象者への説明方法、補償金の支払い時期、生活再建対策、苦情処理メカニズムに関する乖離については必ず確認する。

イ) 住民移転の必要性の記載

- (a) 事業概要、事業対象地、用地取得・住民移転(所有する土地や構造物への影響により主たる生計手段を失う経済的移転を含む)・樹木や作物の伐採等が生じる事業コンポーネントを記載する。また、用地取得及び住民移転を回避・最小化させるための代替案を記載する。住民移転について、地籍図を基に正規・非正規別の移転規模、移転完了時期、実施機関の責任・役割を整理する。

ウ) 社会経済調査(人口センサス調査、地籍・財産・用地調査、家計・生活調査)の実施

- (a) 人口センサス調査は、事業による用地取得・住民移転等の対象者を対象に実施し、補償・生活再建対策の受給権者(地主、賃借人、商売人、店舗従業員、非正規占有者を含む)数を確認する。なお、調査開始日にカットオフデートが宣言され、カットオフデート後に流入した住民に対しては補償・生活再建対策の受給権は付与されないものとする。移転先地を提供する場合には、移転住民の移転先地に対する意向調査も併せて行う。
- (b) 地籍・財産・用地調査は、事業対象地の全占有者が所有する資産を対象に実施し、物理的、経済的に影響を受ける資産項目及びその数量、正規・非正規の別を確認する。人口センサス調査と同時に実施することが望ましい。
- (c) 家計・生活調査は、事業対象地の占有者の最低 20%を対象に実施し、受給権者世帯の標準的特徴、生計・生活水準に関する基礎データ、社会的弱者(特に貧困ライン以下の住民、土地を所有していない住民、高齢者、女性、子ども、先住民、少数民族、障害者、マイノリティ、その他当該国の土地収用法でカバーされていない人々を指す)に係る情報を整理する。

エ) 損失資産の補償、生活再建対策の立案

- (a) 損失資産の補償、生活再建対策の受給権者要件(地主、小作人、賃借人、商売人、店舗従業員、非正規占有者を含む)を特定する。
- (b) 土地ベースで生計を立てている受給権者の場合は、金銭補償ではなく、同立地、同生産性を有する代替地の提供を優先し、提供できない場合はその理由を記載する。
- (c) 損失のタイプ、損失の程度、補償・支援の受給権資格者、受給補償内容、責任機関等その他を記載した補償の枠組みを整理したエンタイトルメント・マトリックスを作成する。

- (d) ESS 5 で定義される再取得価格に基づく損失資産の補償手続き及びその手続きに責任を有する機関について記載する。補償手続きの検討にあたっては、受給権者が所有する代表的な土地、資産の価格査定を目的とした再取得価格調査を必ず実施し、再取得価格と相手国等の法制度に基づく補償水準に乖離があるかを確認する。仮に乖離が確認された場合は、乖離を埋めるために必要な補償金の補填手続き及び責任機関を検討する。なお、物理的な移転を伴う受給権者に対しては、転居費用も併せて提供する。
- (e) 生活・生計への影響については、移転前と比べ、受給権者の生計及び生活水準が改善、少なくとも回復させるための生活再建対策を策定する。生活再建対策は、損失資産補償補填、雇用提供、給与補填、信用供与、職業訓練等の形態をとる。ただし、技術的、経済的に実行可能で有ることに加え、受給権者と協議の上で作成される必要がある。
- オ) 移転先地整備計画の作成(事業の中で移転先地を整備する場合)
- (a) 必要に応じて取得される土地に比べ潜在的に生産性や立地に優位性がある移転先地を地籍図・土地利用計画図等を基に選定し、住宅や社会基盤(上下水道、区画道路等)の整備計画、社会サービス(学校、医療等)提供計画を作成する。移転先地の選定にあたっては同立地の災害リスクを勘案する。また、移転先地整備に伴う環境アセスメント、緩和策、環境管理計画を作成する。
- カ) 苦情処理メカニズムの検討
- (a) 事業対象地にある既存の苦情処理メカニズムを活用すべきか、新たに苦情処理メカニズムを構築すべきかについて、容易さ、利便性、信頼性等の観点から比較検討する。選定された苦情処理メカニズムに関し、手続きを担う組織の権限、組織の構成メンバー、苦情の申立方法、処理手順、処理期限、周知方法等を記載する。
- キ) 実施体制の検討
- (a) 住民移転に責任を有する機関(実施機関、地方自治体、コンサルタント、NGO等)を特定し、各機関の責務(機関の役割、組織図、部署の役割、スタッフの役割、採用基準、人件費を含む経費等)を記載する。
- (b) 住民移転に責任を有する各機関の組織能力評価を行い、不十分な場合は能力強化策を提案する。原則として整備した移転地の引き渡し後、地方自治体が移転地のインフラや電気・ガス・水道・通信等のメンテナンスの責任を持って行うことについて、実施機関、自治体等から承諾を得る。
- ク) 実施スケジュールの検討
- (a) 補償金や転居に必要な支援(転居費用等)を提供し終え、移転先地のインフラ整備や社会サービス(学校、医療等)の提供準備が整った段階で、物理的な移転

を開始するスケジュールとする。

ケ) 費用と財源の検討

- (a) 補償費、移転先整備費、生活再建対策費、事務費等の住民移転に必要な費用を項目別に概算し、全体の支出スケジュールを作成する。補償費は、再取得価格調査を実施した上で、受給権者が所有する代表的な土地、資産の価格査定結果に基づき概算する。相手国等の用地取得、住民移転に係る法制度に基づかない費用を確保する必要がある場合は、その財源の確保方法についても検討する。

コ) モニタリング・事業終了評価方法の検討

- (a) 実施機関による内部モニタリング体制を検討し、住民移転の進捗監理のために必要なモニタリングフォームを作成する。なお、モニタリングフォームには、住民移転に係るインプット、アウトプット、アウトカム指標を含める。
- (b) 独立機関による外部モニタリング体制を検討し、外部委託する際に必要な公示資料案を作成する。
- (c) 住民移転が計画どおり実施されたか確認するために必要な事業終了評価方法を検討し、外部委託する際に必要な公示資料案を作成する。

サ) 住民参加の確保

- (a) 社会的弱者(女性、子ども、高齢者、貧困層、先住民族、障害者、難民・国内避難民、マイノリティなど社会的に脆弱なグループを含む)や移転先住民族にも十分配慮した形で、住民移転の計画立案から実施を通じて住民参加を確保するための戦略を作成する。当該戦略には、ステークホルダー分析、初期設計代替案に関する住民協議、社会経済調査を通じた個別世帯への事業説明、鍵となる人物へのインタビュー、社会的弱者等とのフォーカスグループディスカッション、補償方針を含めた住民移転計画案に関する住民協議、移転情報冊子の配布、移転住民の参加を確保した実施・モニタリング体制が含まれることが望ましい。なお、案件形成段階の住民参加を確保するための戦略については、実際に、住民説明・協議の開催支援を行う。また、住民説明・協議を開催した場合は議事録を作成し、得られた意見については住民移転計画へ如何に反映したかも記載する。なお、住民協議等に必要な費用は再委託費等を含むこととする。

- (イ) 住民移転計画案に基づき、協力準備調査報告書内の環境社会配慮該当箇所を作成する。

(7) ジェンダー視点に立った調査・計画

本業務では以下の対応を行う。

- ① 調査の実施に際しては、支援対象国・地域の社会(や世帯内)における、ジェンダー別による労働や力関係、役割分業の状況、ジェンダーに関連した制度・社会規範・慣

習等を調べた上で、ジェンダーで異なるニーズや課題等を調査・分析し、抽出されたジェンダー課題やニーズに対する取り組みを事業内容に反映させる。また、実施機関におけるジェンダー主流化の状況や取り組みの可能性について調査し、実施機関におけるジェンダー平等と女性のエンパワメントを推進する取り組みを反映させる。

② 具体的な検討に際してのステップは以下のとおり。

事業内容に反映するためのステップ

(ア) 社会・ジェンダー分析を行う。

(イ) 事業の枠組みの中でジェンダー課題を解消するための活動を特定・設定する。

(ウ) ジェンダー視点に立ったアウトプット(成果)設定の必要性を検討する。

(エ) ジェンダー視点に立った取り組みを担保し測定するための指標を設定する。

③ 調査項目として下記を含める。

➤ 橋の利用者数(男女別、利用時間帯別)

➤ 利用状況、目的と手段、利用しない理由(ジェンダー別)

➤ 周辺の治安状況(ジェンダーに基づく暴力の発生状況、街灯の有無)

➤ 女性技術者が抱える課題とニーズ

(8)障害配慮に関する検討・計画

本業務では以下の対応を行う。

➤ 本事業の実施において、障害等に配慮したアクセシビリティの確保や、障害を理由とした差別や排除がなされないような設計・運用に関する提案を行う。

➤ 実施機関と議論を行い、事業計画内に障害等への配慮する対応を盛り込む。

(9)気候変動対策案件としての検討

「気候変動対策支援ツール(JICA Climate-FIT)(適応策)」の該当箇所等を参考に、本事業における気候変動リスク評価(気候変動により発生する影響・リスクの評価)を実施し、適応策(気候リスクの回避・低減策等)の特定、事業計画に当たっての適応策の事業への組み込みの検討・提案及び裨益人口(適応案件の受益者数)の推定を行う。なお、気候変動リスク評価に使用した根拠資料(リスクツリーや裨益人口算出の考え方等)を発注者に提出すること。

➤ 具体的には、近年甚大化している豪雨・洪水に対するリスク分析を実施する。

(10)JICA サステナビリティ方針を踏まえたパリ協定整合(特に脱炭素化)に関する検討

JICA サステナビリティ方針への整合性の確認

「JICA サステナビリティ方針」で定める「全新規事業をパリ協定に整合する形で実施する」との目標を踏まえ、本事業の位置づけを以下の観点で検討する。なお、下記①～③

の検討結果については報告書には記載せず、発注者が受注者に配布する様式に沿って、別途発注者に提出する。

- ① 「国が決定する貢献(NDC)」と矛盾がないか
 - 本事業で使用される技術が当該国の最新の「国が決定する貢献(Nationally Determined Contribution: NDC)」において、明確に投資対象外とされている技術でないかを確認する。
 - また、その他の NDC の前提となる気候変動やエネルギー政策における本事業の位置づけを確認する。

- ② 脱炭素化ロードマップ・パスウェイとの整合性(該当する場合のみ)
 - 2050 年カーボンニュートラル達成に向けた当該セクターの道筋(パスウェイ)を含む当該国政府が策定したロードマップの有無を確認する。そのようなロードマップが存在しない場合には、IEA といった国際機関や他の支援国等が策定した 1.5℃ 目標達成に向けた当該セクターの道筋(パスウェイ)を確認する。
 - なお、IEA といった国際機関や他の支援国等が策定した 1.5℃ 目標達成に向けた当該セクターの道筋(パスウェイ)については、可能な限り、当該国や当該地域、新興・開発地域の道筋など、当該国の道筋と関連性が高いものを使用する。
 - 本事業の特性が上述の脱炭素化ロードマップ・パスウェイと整合するかを確認する
 - 脱炭素化ロードマップ・パスウェイで掲げる炭素集約度の推移と本事業の炭素集約度の推移、又は排出量の総量の比較を行う。また、本事業の道筋が整合しない場合には、当該国の当該セクター全体の脱炭素化に向けた道筋が、本事業によって阻害されるものでないかを検討する。
 - また、使用する技術がトランジション技術とタクソノミー等で位置づけられているかを検討する。

- ③ カーボン・ロックイン(ロックイン効果)の確認
 - 本事業が近い将来に炭素集約的運用から低炭素型の運用に移行する可能性があるか、移行の可能性が阻まれていないかを確認する。例えば、以下の観点で検討する。
 - 事業のビジネス上の特性:低炭素型の代替手段が実現可能になった場合でも、そのような手段への切り替えが起らないリスクが事業構造・契約上内包されていないかを確認する。
 - 当該セクターの市場構造の特性:当該セクターでの規制や市場構造により、低炭素技術への切り替えを停滞させるインセンティブを本事業が生み出さないかを確認する。
 - 当該プロジェクトの背景事情:2050 年のカーボンニュートラル達成に加えて、当該国政府や実施機関、運営主体等が脱炭素化に向けたコミットメントや計画を有しているか等を踏まえ、定性的に本事業がどのような位置づけとなる見込みかを確認する。

(11)調達事情調査

- 本事業実施に必要な資機材(鉄筋、骨材、コンクリート、アスファルト、建設機材等)・労務について、現地調達や第三国調達の可能性を検討し、調達事情(調達先、調達方法、調達期間、調達価格、品質等)を調査する。
 - ① 現地国内及び第三国における輸送状況の調査
 - ② 第三国調達の可能性の検討
 - ③ 上記を踏まえた調達方針及び調達計画の策定

(12)施設、設備、機材計画調査

- 既存施設や機材の種類・仕様・数量、使用・稼働状況、破損・故障の規模、維持管理体制、運用状況、今後の整備計画等を調査し、適切な事業規模・対象サイトの選定に必要な検討を実施する。
- 検討結果を施設計画、機材・資材調達計画に反映する。日本製の機材を活用することが品質確保やライフサイクルコスト等の観点から望ましい場合は、積極的に活用することを検討する。

(13)基本計画／概略設計図の作成

- 各種調査に基づき、本事業の基本計画を作成する。基本計画の整理、確定にあたっては、その検討内容や最終判断の理由等を整理する。
- 基本計画に基づいた概略設計図を作成する。概略設計図には、施設／構造物全体の平面図／縦断図／標準断面図の図面を含める。

(14)施工計画の立案

以下の施工計画について検討・作成する。

- ① 施工方針
- ② 施工上の留意事項
- ③ 施工区分(相手国負担工事との区分)
- ④ 品質管理計画
- ⑤ 資機材調達計画
- ⑥ 仮設計画(必要に応じて)
- ⑦ 実施工程
- ⑧ 資材ヤード・建設ヤード等の用地候補に係る検討
- ⑨ 施工期間中の通行の確保・交通安全等への配慮
- ⑩ 施工監理計画

- 本事業の施工監理計画についても、概略設計と施工計画を踏まえ、コンサル

タントが行う施工監理の方針、体制、方法を検討し、取りまとめる。

(15)事業の維持管理計画の立案

- 本事業での整備対象施設に関する維持管理について、人的リソース・技術力・財政状況などを調査したうえで、毎年必要な点検・維持管理業務と数年単位で必要な維持管理業務に分類して整理する。
- 維持管理業務の実施体制・方法及び事業の維持管理費・更新費用を検討する。

(16)技術支援計画の検討、計画策定

本業務では当該項目は適用しない。

(17)施工時の工事安全対策に関する検討

本業務では以下の対応を行う。

- 発注者から提供される「安全対策ガイダンス」も参考にしつつ、事業実施時に必要となる治安上の安全対策を検討し、案件別安全対策検討シート(案)を作成する。
- 施工時の工事安全対策に関する情報は発注者の現地事務所に蓄積していくことが望ましいため、現地調査開始時点で同事務所とすり合わせし、相手国政府・実施機関等から入手あるいは照会が必要な情報について同事務所に相談する。また、現地調査終了時には必ず同事務所に報告を行う。
- 施工計画の策定に際して、安全管理ガイダンスの安全施工技術指針及び収集した相手国の工事安全／労働安全衛生に関する法律・基準に留意のうえ、最近の先行調査の事例も踏まえた上で必要な安全対策を検討し、概略設計に反映する。
- 上記安全対策の経費については、概略事業費の積算にあたって適切に計上する。

(18)内部照査の実施

本業務では以下の対応を行う。

- 概略設計の正確性と品質の確保を目的として、発注者から提供される「内部照査について」に沿って、内部照査を実施し、結果を発注者に提出し、承諾を得る。
- 照査計画及び照査項目は、照査開始に先立って発注者に提示する。

(19)相手国負担事項の整理

- 我が国無償資金協力スキームを踏まえ、本事業で協力対象とする範囲と、予定されている相手国側負担事項との責任分担の考え方を現地調査時に相手国側実施機関へ明確に説明する。

- 相手国側負担事項⁶(用地確保、便宜供与、各種建設許可の取得、道路ユーティリティ(支障物件)の移設、交通規制、環境社会配慮に係る手続き等)のプロセス、実施のタイミング、各手続きにおける関係省庁、費用を明確にし、進捗管理表を作成して、その着実な実施を相手国政府・実施機関に要請し、個別に書面にて確約を取り付ける。
- 相手国側負担事項については、相手国側の実情を踏まえつつ実施可能なものとなるよう留意し、調査実施の早期の段階から相手国側及び発注者と十分に調整を重ねた上で検討する。

(20) 免税情報の収集・整理

本業務では以下の対応を行う。

- 免税措置等に関し、当該事業実施において関係する主要税目⁷を対象に、それぞれの税の名称、税率、計算方法、根拠法等を調査する。主要税目は、以下を含む。
 - 法人の利益・所得に課される税金(法人税等)
 - 個人の所得に課される税金(個人所得税等)
 - 付加価値税(VAT 等)
 - 資機材の輸入に課される税金や諸費用
 - その他当該事業実施において関係する主要税目
- 各税目について、受注企業が免税(事前免税、事後還付、実施機関負担等)を確保するために必要な手続き(申請先、手順、所要期間等)について調査する。過去に免税措置に関する問題があった場合は、その状況を詳しく調査する。
- 過去に案件を実施した経験のある本邦企業に対して、一般社団法人海外建設協会(OCAJI)等を通じてヒアリングを行い、免税情報を収集する。
- 対象国の免税情報については、発注者が過去に取りまとめた免税情報シートがあるため、同シートをもとに調査の上、更新する。
- 免税情報は発注者の現地事務所にて蓄積していくことが望ましいため、調査開始時点で同事務所に照会し、同事務所が有する情報を入手し、情報のアップデートを行う。設計・積算前の現地調査終了時には必ず同事務所へ報告する。その際、更新した情報と併せて、相手国政府・実施機関と面談した際の情報(面談相手、内容、連絡先等)も提出する。

(21) 現地調査結果概要の作成・説明

- 概略設計協議前に行う現地調査後、10日以内に現地調査結果概要を作成し、帰国報

⁶ これら調査の結果は無償資金協力として事業を実施する際の相手国側負担事項として記載され、実施のタイミングや予算の概算と共に、事業実施時の相手国負担事項の根拠ともなる。なお、この情報は詳細設計時にさらに精査・更新されていくものである。

⁷ 無償資金協力事業では免税が原則である。

告会にて説明する。

(22)概略事業費の算出

- ① 我が国の無償資金協力の対象として計画する本事業の概略事業費を積算・設計にかかるガイドライン等を参照して積算する⁸。
- ② 積算の結果を「概算事業費積算内訳書」にとりまとめて発注者に提出する。
- ③ 概略事業費の算出にあたり、コスト縮減の可能性を十分に検討する。

(23)想定される事業リスクの検討

本業務では以下の対応を行う。

- 事業実施中・実施後に想定される各種リスクを特定し、対応策(リスクの管理や軽減策)を検討する。特に事業実施中のリスクについては、それらをコントロールする手法について検討する。
- 事業実施後に想定されるリスクの軽減策については、詳細設計の対応によるリスク軽減策等、ハード面、ソフト面の双方について検討する。

(24)事業の評価指標の検討

- 事業の評価を妥当性と有効性に分類して整理する。
- 有効性については、①定量的効果、②定性的効果に分類して評価し、定量的効果については、可能な限り定量的指標を設定し、事業完成後約3年をめどとした目標年の目標値を設定する。設定の際は資金協力事業の開発課題別指標例を参照する。

(25)事業概要の本邦企業への説明

本業務では以下の対応を行う。

- 概略設計協議前に、本事業への応札を検討する本邦企業⁹に対して事業実施に重要なポイント(事業概要、サイトの状況、自然条件、現地調達事情、積算の根拠とした工法や仮設、免税項目、相手国負担事業等)を説明する事業説明会¹⁰を発注者が開催するので、受注者は調査結果の説明を行う等、同説明会の実施を支援する。同説明会において企業から出た質問やコメントに対する対応を発注者と調整し、調査結果に反映させる。

⁸ 積算にあたっては、同積算の結果が無償資金協力の事業費算定の根拠となることを踏まえて、調査・設計の妥当性を良く検討し、資料の欠落や誤植・違算を防止するとともに、過不足のない適正なものになるよう留意する。

⁹ OCAJI 等の関連業界団体を含む。

¹⁰ 事業概要、サイトの状況、自然条件、現地調達事情、積算の根拠とした工法や仮設、免税項目、相手国負担事業等。

(26)協力準備実施報告書(案)の作成

- 調査全体を通じ、その結果を協力準備調査報告書(案)として取り纏め、内容について発注者とすり合わせる。

(27)協力準備調査報告書(案)の説明

本業務では以下の対応を行う。

- 概略事業費を含めた協力準備調査報告書(案)の内容を相手国政府・実施機関等に説明する。
- 相手国側による事業の技術的・財務的自立発展性確保のための条件、具体的対応策について十分説明・検討する(特に維持管理体制の整備と必要な予算／財源の確保、環境社会配慮等)。
- 協力準備調査報告書は、調査完了後速やかに概略事業費の記載を除く内容を公表すること、本事業に関する業者契約認証後には概略事業費を含む全内容を公表することを、相手国政府・実施機関等に説明する。

(28)協力準備調査報告書の作成

- 相手国政府・実施機関等への協力準備調査報告書(案)の説明を踏まえ、協力準備調査報告書を完成させる。
- 本業務完了後直ちに調査内容を公開するために概略事業費を記載しない報告書として協力準備調査報告書(先行公開版)¹¹も作成する。
- 本業務では完成予想図も含めて作成する。

(29)事業の位置づけ及び事業効果の整理

- 本事業が東西経済回廊の機能強化にどのように寄与するのかについて、定量的及び定性的観点から整理する。具体的には、交通状況・交通量、旅行速度および交通事故に関する調査の結果等も踏まえ、旅行時間短縮、交通安全性の向上、地域開発効果等の事業効果を国道 9 号線及び東西経済回廊全体への効果も踏まえて整理把握する。また、本事業を実施することによる経済・社会における実害・ニーズについて把握する。

第5条 成果品

- 業務の各段階において作成・提出する報告書等及び数量(部数)は次表のとおり。提出の際は、Word 又は PDF データも併せて提出する。最終成果品の提出期限は履行期間の

¹¹ 協力準備調査報告書には概略事業費の記載があるため、施工・調達業者契約認証まで公開制限を行っている。

末日とする。なお、数量(部数)は、発注者へ提出する部数であり、相手国実施機関との面談等に必要な部数は別途受注者が用意する。

- 本業務を通じて収集した資料および調査データは項目毎に整理し、収集資料リストを添付して、発注者に提出する。
- 受注者もしくは相手国実施機関等の第三者が従来から著作権を有する等、著作権が発注者に譲渡されない著作物は、利用許諾の範囲を明確にする。
- 調査データの取得に当たっては、文献や実施機関への照会等を通じて対象国の法令におけるデータの所有権及び利用権を調査する。調査の結果、発注者が当該データを所有あるいは利用することができるものについてのみ提出する。

本業務で作成・提出する報告書等及び数量

報告書名	提出時期	言語	形態	部数
業務計画書	契約締結後 10 営業日以内	日本語	電子データ	-
インセプション・レポート	初回現地調査前	英語・日本語	電子データ	-
環境チェックリスト (調査方針)	初回現地調査前	日本語	電子データ	-
環境チェックリスト (設計方針会議用)	第 1 回現地調査後 2 カ月以内	日本語	電子データ	-
現地調査結果概要	概略設計協議調査前	日本語	電子データ	-
協力準備調査報告書(案)	解析後	日本語	電子データ	-
		英語	電子データ	-
初期環境調査報告書／環境アセスメント案、住民移転計画案	第2回現地調査の 2～3 カ月前を目途	英語・日本語	電子データ	-
協力準備調査報告書(案) (環境社会配慮部分)	第2回現地調査の 2～3 カ月前を目途	英語・日本語	電子データ	-
照査チェックリスト	概略設計協議 調査前	日本語	電子データ	-
デジタル画像集	概略設計協議 調査後	日本語	電子データ	-
進捗報告書 ¹² の初版	概略設計協議 調査後	日本語	電子データ	-
免税情報シート	概略設計協議 調査後	日本語	電子データ	-
概要資料(案)	概略設計協議 調査後	日本語	電子データ	-
業務進捗報告書	期分けした各期の契約履行期限(最終期を除く)	日本語	電子データ	-

¹² Project Monitoring Report (PMR)

協力準備調査報告書 (先行公開版)	契約履行期限末日	日本語	CD-R	2部
		日本語	製本	2部
協力準備調査報告書 (最終成果品)	契約履行期限末日	日本語	CD-R	3部
		日本語	製本	3部
		英語	CD-R	3部
		英語	製本	3部
概略事業費積算内訳書 (最終成果品)	契約履行期限末日	日本語	CD-R	2部
調査データ	契約履行期限末日	作成言語	電子データ	

記載内容は以下のとおり。

(1) 業務計画書

- 共通仕様書第6条に記された内容

(2) インセプション・レポート・現地調査結果概要・協力準備調査報告書(案)、概略事業費積算内訳書、デジタル画像集、免税情報シート、協力準備調査報告書

- 「無償資金協力にかかる報告書等作成のためのガイドライン」に示された内容

(3) 概略事業費積算内訳書・機材仕様書

- 設計・積算にかかるガイドライン等に示された内容

(4) 進捗報告書の初版

- 「進捗報告・Project Monitoring Report(PMR)」に示された内容

(5) 内部照査チェックリスト

- 「内部照査について」に示された内容

(6) 調査データ

- 位置情報¹³の含まれるデータは、KML もしくは GeoJSON 形式。
- ラスターデータに関しては GeoTIFF 形式。
- Google Earth Engine を用いて解析を行った場合は、そのコードを含めたもの。

¹³ 位置情報の取得は可能な限り行うが、本業務においては、追加的に位置情報を取得する必要はなく、必然的に位置情報が付されるデータを対象とする。

(7) 環境社会配慮に関する資料

(ア) 環境チェックリスト(調査方針)

記載内容:第4条(6)「環境社会配慮に係る調査」①「初期環境調査」及び②「用地取得・住民移転計画」に係る調査方針を記載し、環境チェックリストの様式を用いて要約すること。

(イ) 環境チェックリスト(設計方針会議用)

記載内容:第4条(6)「環境社会配慮に係る調査」①「初期環境調査」及び②「用地取得・住民移転計画」の暫定結果を環境チェックリストの様式を用いて要約すること。

(ウ)初期環境調査報告書／環境アセスメント案、住民移転計画案

記載内容:調査結果の全体成果(環境チェックリスト案による要約を含む)

(エ)ドラフト・ファイナル・レポート(環境社会配慮部分)

記載内容:調査結果の全体成果(環境チェックリスト案による要約を含む)

第6条 再委託¹⁴

本業務では、以下の業務について、業務対象国・地域の現地法人(ローカルコンサルタント等)への再委託を認める。再委託契約の仕様・想定規模は以下のとおり。

	項目	仕様	数量	見積の取扱
1	気象・水理・水文調査	プロジェクトサイトにおける降雨量等の気象データ及び河川水位、流量、河道河床変動、洪水痕跡水位等の調査を実施する。	一式	定額計上
2	地形測量調査	<ul style="list-style-type: none">● 平面地形測量:架橋計画地点を中心に延長200m×幅50m程度● 河川縦断測量:架橋計画地点を中心に上流100m、下流100m程度● 河川横断測量:測量幅80m×10か所程度● 路線測量:架橋計画地点から現況道路につなぐ取付道路を設計するための測量。	一式	定額計上
3	地質調査	橋梁建設並びに取付道路の建設を想定する範囲を対象として、地表調査、ボーリング調	一式	定額計上

¹⁴ ここに記載している仕様(数量や調査内容)はあくまで目安であり、下記を超えた数量や調査内容について、プロポーザルで提案することに問題はない。

		<p>査、標準貫入試験、土質試験、材料試験等を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ボーリング調査及び標準貫入試験は 約 7 か所(架け替え橋梁の橋台+架け替え橋梁の橋脚部(必要に応じ)+既存橋の橋脚部)を想定している。 ● 取付道路については、道路設計のために土質調査(路床 CBR、路盤材料試験)及び骨材試験、試掘(地下水調査を含む)の実施も想定している。 		
4	環境社会配慮調査	第4条(6)に記載の内容	一式	定額計上
5	交通量調査	既存橋梁箇所、平日と休日の2日間で 12 時間計測	一式	定額計上

第7条 機材の調達

本業務では、機材調達の実施を想定していない。

第8条 「相談窓口」の設置

発注者、受注者との間で本特記仕様書に記載された業務内容や経費負担の範囲等について理解の相違があり発注者と受注者との協議では結論を得ることができない場合、発注者か受注者のいずれか一方、もしくは両者から、定められた方法により「相談窓口」に事態を通知し、助言を求めることができる。

1. 基本情報

- (1) 国名: ラオス人民民主共和国(以下、「ラオス」という。)
- (2) プロジェクトサイト/対象地域名: サバナケット県(人口約 113 万人)
- (3) 案件名: 国道 9 号線における橋梁架け替え計画(The Project for the Reconstruction of the Bridges along National Road No.9)
- (4) 事業の要約: 東西経済回廊の一部を構成する同国の国道 9 号線上において、老朽化した橋梁の架け替えを実施するもの。

2. 事業の背景と必要性

- (1) 当該国における道路・橋梁セクターの現状と課題及び本事業の位置付け

内陸国であるラオスは、輸送の大半を陸上交通に依存しており、隣国に接続する道路の連結性強化がラオスの産業発展にとって極めて重要である。また、中南部に位置する国道 9 号線は、ベトナム、ラオス、タイ、ミャンマーを繋ぐ東西経済回廊の一部であり、ラオスのみならず、ASEAN 全体の物流促進と連結性強化にとって戦略的に重要な国際幹線道路でもある。なお、国道 9 号線の北部に並走する国道 8 号線、国道 12 号線は山岳地帯を含み、幅員が狭く自然災害に脆弱であることから、比較的平坦な国道 9 号線が東西の物資輸送の大動脈であり、災害時の代替路としての機能も有している。このような重要性に鑑みて、日本は 1999 年以来、国道 9 号線の整備をハード・ソフト両面で支援してきた。

国道 9 号線上にある合計 51 橋のうち 45 橋は、1980 年代～1990 年代初頭にロシア(旧ソ連)又はベトナムが整備したものであるが、近年は老朽化に加え、過積載車両の通行等による損傷が進んでいる。特に、ベトナム国境に近い峡谷を挟むホワイコック 1 号橋(Houay Kok 1)及びホワイタポアン橋(Houay Ta Pouan)の損傷度合は著しく、貨物輸送の需要に比して橋梁の設計荷重が不足しているため、放置すれば崩落する危険性が指摘されている。上記2橋は、近隣の住民による通勤、通学等、日常生活でも利用されており、通行の安全性確保は喫緊の課題である。

両橋とも一般的なコンクリート橋であるが、床板、主桁、支承等の損傷がいずれも著しい。特に、床板が傷み大型車通行時の荷重が過大にかかることによる主桁のひび割れや、支承と主桁の接続部分の損壊が顕著である。ラオス政府は応急処置を講じているものの、橋長が長く、深い峡谷に架かる橋梁という技術的難度の高さから、十分な修繕には至っていない。加えて、両橋は狭幅員の橋梁構造であることから、大型車両が橋梁への進入時に交通事故を起こし、一時的に道路交通が寸断される事態も生じている。

こうした中、ラオス政府からは、緊急性が高く、かつ、技術的難易度の高いホワイコック 1 号橋とホワイタポアン橋を我が国の技術を活用して架け替えることの要請があった。

本事業は、ラオスの地域住民の生活及び周辺国との連結性強化に不可欠な幹線道路の安

全な通行を確保し、既存道路インフラの維持管理や長寿命化に係る課題解決を図るものとして、同国の「第 9 次国家社会経済開発計画(2021~2025)」における優先事項である地方部の「道路・橋梁インフラの整備、維持管理」及び「公共事業運輸省 5 年開発計画(2021~2025)」に貢献するものである。

(2) 道路・橋梁セクター／同地域に対する我が国及び JICA の協力量針等と本事業の位置付け(特に自由で開かれたインド太平洋(FOIP)等の主要外交政策との関連)

「対ラオス人民民主共和国国別開発協力量針(2019 年 4 月)」では、「周辺国とのハード・ソフト面での連結性強化」のもと、ASEAN 連結性強化に資するインフラの整備及び維持管理を挙げており、対ラオス人民民主共和国 JICA 国別分析ペーパー(2024 年 3 月)においても連結性強化に資する幹線道路・橋梁の整備・改修を協力量針として検討するとしている。また、JICA グローバル・アジェンダ「運輸交通」では、国際回廊として位置付けられている道路の整備に高い優先度を置いており、「重量制限等で通行に支障を来す橋梁改修」を有効な改善策としている。さらに本事業は 東西経済回廊の強化に資する点で、「自由で開かれたインド太平洋」における「多層的な連結性」の取組の柱に位置付けられる。

関連する過去の対ラオス協力として、道路整備においては、無償資金協力「国道 9 号線改修計画(第 1、2 期)」(1999~2002 年)、無償資金協力「第二次国道 9 号線改修計画」(2001~2004 年)、及び無償資金協力「国道九号線(メコン地域東西経済回廊)整備計画」(2012~2015 年)が実施されている。国道 9 号線の橋梁整備については、特に早急の改修が必要と判断されていたセクムカーム橋とセタームアック橋(共にチェコ・スロバキア共和国(当時)の支援により建設されて 30 年以上が経過し、主桁の損傷が進行していたもの)につき、無償資金協力「国道九号線橋梁改修計画」(2017~2019 年)を通じて架け替えを支援した。また、技術協力「道路アセットガバナンス改善プロジェクト」(2025~2029 年)の一環として国道 9 号線上の橋梁の技術的な確認・評価を行った結果、緊急性が高く、かつ、補修材による補強工事に対応可能と判断されたベトナム国境付近の 8 橋については、令和 6 年度無償資金協力「経済社会開発計画」による支援を実施中である。

ラオス公共事業運輸省及び県公共事業運輸局による橋梁維持管理能力を強化し、橋梁点検体制の構築を支援するため、我が国は、技術協力「橋梁維持管理能力強化プロジェクト」(2022~2024 年)を実施した。また、橋梁損傷の原因の一つである大型貨物車の過積載の取り締まりを強化するとともに、ラオス政府による持続可能な維持管理を実現させるため、上述の「道路アセットガバナンス改善プロジェクト」を通じて、国道 9 号線の過積載管理体制・制度の運用と性能規定型道路維持管理と道路通行税制度の導入を支援している。

(3) 他の援助機関の対応

ADB は、同行が提唱する「大メコン圏」の東西経済回廊整備を目的とした「東西交通回廊プロジェクト」により、国道 9 号線上の約 1/3 に当たるベトナム国境側 78km の道路整備(2000~2003 年)を実施(残り 2/3 は日本が支援)。加えて、世界銀行や韓国国際協力団、アジアインフラ投資銀行、タイ周辺諸国経済開発協力機構も、国道 2、3、6、8、12、13 号線等の幹線道路や地方道路の整備・改修・維持管理を支援し、国内外の連結性向上に貢献して

いる。他方、ラオス政府及びドナー間では、国道 9 号線は日本が主要なドナー国と認識されており、本事業は日本にのみ要請されている。なお、ADB は、国道 9 号線を含む税関への技術支援を実施中であるが、現時点で同道路へのハード支援は行っていない。

(4) 本事業を実施する意義

本事業は同国の開発課題・開発政策、我が国の協力方針に合致し、SDGs ゴール 9「産業と技術革新の基盤をつくろう」に貢献することから、事業の実施を支援する必要性は高い。また、同国の債務持続性評価は「In debt distress」と指摘されている(2024 年、IMF)。

本事業の実施により、東西経済回廊の安全かつ円滑な通行を確保することで、同国の産業の多角化や外貨獲得の促進、ひいては同国の財務安定化に資することが期待される。また、起こりうる崩落事故を防いで、国道 9 号線を利用する沿線住民の生命と安全を確保し、ライフラインの維持による医療・教育へのアクセスを確実なものとするためにも、無償資金協力として本事業の実施を支援する必要性は高い。

国道 9 号線整備への協力は、日本の開発協力の顔となる支援であり、ASEAN 連結性の中核をなす東西経済回廊の開発において日本が引き続き主要な役割を果たすことは、ラオスひいては ASEAN における日本のプレゼンスを確保する観点からも重要である。

更に、国道 9 号線は同国のみならずタイ、ベトナムなど周辺国に拠点を有する日系企業を含む各国企業が原材料や製品の輸送等で利用していることから、本事業の実施により、東西経済回廊を活用したビジネス環境整備への裨益効果も期待される。

3. 事業概要

(1) 事業概要

① 事業の目的

本事業は、老朽化が進むホワイコック 1 号橋及びホワイタポアン橋を架け替えることにより、国道 9 号線の安全かつ円滑な交通の実現を図り、もって国道 9 号線周辺地域及び同国の経済産業を支える東西経済回廊のインフラ整備に寄与するもの。

② 事業内容

ア) 施設・機材等の内容

【施設】ホワイコック 1 号橋(90m)とホワイタポアン橋(72m)の架け替え、アプローチ道路の改修

イ) コンサルティング・サービス/ソフトコンポーネントの内容

詳細設計、入札補助、調達監理。ソフトコンポーネントとして、橋梁の維持管理指導、橋梁保全計画に係る本邦技術移転等。

ウ) 調達・施工方法

建設機材について、一般的な資材は現地調達とし、現地調達が困難な資材は本邦調達とする。

③ 本事業の受益者(ターゲットグループ)

直接受益者:サバナケット県の住民 約 113 万人(2024 年 ラオス統計局)

間接受益者:ラオス及び ASEAN 広域における産業(鉱工業・農業・運送業等)従事者

④他の JICA 事業との関係

技術協力「道路アセットガバナンス改善プロジェクト」を通じて、公共事業運輸省に対して、過積載管理体制・制度の運用を支援しており、本事業で改修予定の橋梁の持続的な維持管理能力向上にも貢献する。

(2)事業実施体制

- ① 事業実施機関／実施体制:公共事業運輸省道路局(Department of Roads, Ministry of Public Works and Transport(MPWT))、サバナケット県公共事業運輸局(Department of Public Works and Transport(DPWT))
- ② 他機関との連携・役割分担:協力準備調査にて確認する。
- ③ 運営／維持管理体制:サバナケット県公共事業運輸局の全職員数は 611 人。同県の橋梁維持管理に係る年間予算は約 1,300 万円(2024 年実績)。運営維持管理は公共事業運輸局が担う。

(3)安全対策

調査において、事業を実施する際に予見される脅威と対策の検討に必要な情報を収集し、対策を検討する。

(4)環境社会配慮 カテゴリ分類 A B C FI

(5)横断的事項

①ジェンダー分類:

【確認中】GI(ジェンダー主流化ニーズ調査・分析案件)

<分類理由> 協力準備調査にて、対象橋梁や周辺施設の女性の利用状況や、利用に関わるニーズを確認し、女性にとって利用しやすい安全な設計の検討を含む、ジェンダー課題に対応する取組案、及び指標案を策定・確認するため。なお、その他ジェンダー課題として、公共事業運輸省道路局の女性比率や能力強化機会、建設作業員のジェンダー比等が想定される。

②気候変動

本事業は、橋梁の改修を通じて幹線道路となる国道 9 号線を整備にすることにより、同国とタイ、バトナムを結ぶ輸送ルートを自然災害(台風・土砂崩れ・洪水等)に強靱なものとする中で、気候変動適応策に資する可能性がある。左記の事項については、インフラの強靱化を行うという同国のパリ協定に基づく「自国が決定する貢献(NDC)」における目標と整合するものである。協力準備調査にて相手側実施機関と認識を共有する予定。

③その他:

貧困対策・貧困配慮:サバナケット県の位置するラオス南部地域は同国において相対

的に貧困率の高い地域である。本事業により国道 9 号線の通行を維持することで、沿線の産業を支え、同地域の雇用を維持することに繋がる。

(6)特記事項

特になし。

4. 事業効果

(1) 定量的効果

指標名	基準値 (2025 年実績値)	目標値 (2033 年*事業完成 3 年後)
大型車交通量(万台/年)	44.7	64.3
貨物輸送量(万 t/年)	714.0	1027.6
橋梁の耐荷重(車両通行規制値)(t)	30	40

(2)定性的効果

- ・国際・地域間・地域内の人流・物流円滑化と経済回廊としての機能の担保(経済回廊の寸断リスクの低減や交通安全環境の向上を含む)。
- ・橋梁の安全性、自然災害に対する強靱性の向上。
- ・通学・病院等の通院に必要な生活道路(橋梁)として、地域住民のモビリティの確保。

5. 過去の類似案件の教訓と本事業への適用

ラオス向け無償資金協力「国道九号線(メコン地域東西経済回廊)整備計画」(評価年度 2017)の事後評価等において、対象橋梁の架け替え後の持続性を確保すべく、対象国の維持管理体制を考慮した事業の形成が必要であるとの教訓を得ており、指摘への対応として、技術協力「橋梁維持管理能力強化プロジェクト」(2022~2024 年)において、公共事業運輸省及び公共事業運輸局の橋梁点検体制の構築を支援したほか、実施中の技術協力「道路アセットガバナンス改善プロジェクト」を通じて、国道 9 号線の過積載管理体制・制度の運用と成果・性能連動型道路維持管理と道路通行税制度の導入を支援している。本事業についても、上記の成果も踏まえて対象橋梁が適切に維持管理されるよう実施機関に申し入れるほか、維持管理に係る財政面での持続性に関しても検討を行う。

以上

[別紙資料]国道 9 号線における橋梁架け替え計画 環境社会配慮

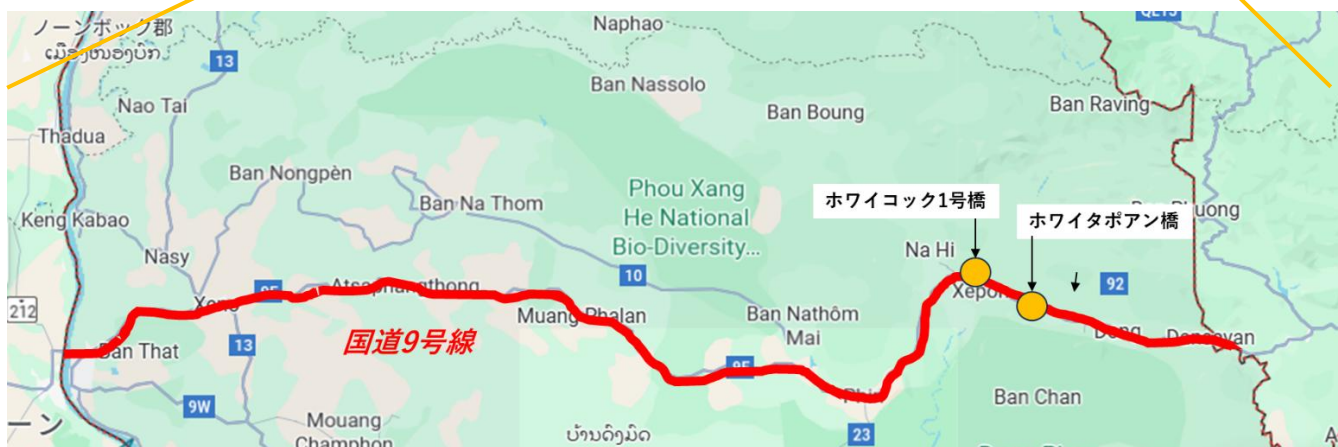
[別添資料]国道9号線における橋梁架け替え計画 地図

国道 9 号線における橋梁架け替え計画 環境社会配慮

- ① カテゴリ分類:B
- ② カテゴリ分類の根拠:本事業は、「国際協力機構環境社会配慮ガイドライン」(2022年1月公布)に掲げる橋梁セクターのうち大規模なものに該当せず、環境への望ましくない影響は重大でないと判断され、かつ、同ガイドラインに掲げる影響を及ぼしやすい特性及び影響を受けやすい地域に該当しないため。
- ③ 環境許認可:本事業にかかる環境許認可の要否の確認が必要。協力準備調査で詳細を確認する。
- ④ 汚染対策:現時点で具体的な影響は特定されていないが、環境や社会への望ましくない影響とその回避・緩和策等については協力準備調査で詳細を確認する。
- ⑤ 自然環境面:現時点で具体的な影響は特定されていないが、環境や社会への望ましくない影響とその回避・緩和策等については協力準備調査で詳細を確認する。
- ⑥ 社会環境面:現時点で具体的な影響は特定されていないが、環境や社会への望ましくない影響とその回避・緩和策等については協力準備調査で詳細を確認する。
- ⑦ その他・モニタリング:具体的なモニタリング項目・手法等については協力準備調査で詳細を確認する。

以上

国道9号線における橋梁架け替え計画 地図



出典： Google Maps(地図データ©2024 Google 及び©2025 Google)より JICA 作成

第3章 プロポーザル作成に係る留意事項

1. プロポーザルに記載されるべき事項

プロポーザルの作成に当たっては、「コンサルタント等契約におけるプロポーザル作成ガイドライン」の内容を十分確認の上、指定された様式を用いて作成してください。

(URL:

<https://www.jica.go.jp/announce/manual/guideline/consultant/20220330.html>)

(1) コンサルタント等の法人としての経験、能力

1) 類似業務の経験

評価対象とする類似業務: 橋梁建設に係る各種調査業務

2) 業務実施上のバックアップ体制等

(2) 業務の実施方針等

1) 業務実施の基本方針

2) 業務実施の方法

1)及び2)を併せた記載分量は、20 ページ以下としてください。

3) 作業計画

上記1)、2)での提案内容に基づき、本業務は成果管理であることから、作業計画に作業ごとの投入量(人月)及び担当業務従事者の分野(個人名の記載は不要)を記述して下さい(様式4-3の「要員計画」は不要です)。

4) 業務従事予定者ごとの分担業務内容(様式4-4)

5) 現地業務に必要な資機材

6) 実施設計・施工監理体制(無償資金協力を想定した協力準備調査の場合)

7) その他

(3) 業務従事予定者の経験、能力

1) 評価対象業務従事者の経歴

プロポーザル評価配点表の「3. 業務従事予定者の経験・能力」において評価対象となる業務従事者は以下のとおりです。評価対象業務従事者にかかる履歴書と担当専門分野に関連する業務の経験を記載願います。

・評価対象とする業務従事者の担当専門分野

➤ 業務主任者/〇〇

※ 業務主任者が担う担当専門分野を提案してください。

2)業務経験分野等

評価対象業務従事者を評価するに当たっての格付の目安、業務経験地域、及び語学の種類等は以下のとおりです。

【業務主任者(業務主任者／〇〇)格付の目安(2号)】

- ① 対象国及び類似地域：ラオス国及び全途上国
- ② 語学能力：英語

※ なお、類似業務経験は、業務の分野(内容)との関連性・類似性のある業務経験を評価します。

2. 業務実施上の条件

(1)業務工程

- 1)事前準備：2026年6月
- 2)現地調査：2026年6月～7月
- 3)国内解析：2026年7月～2027年3月
- 4)概略設計ドラフト説明：2027年3月
- 5)国内整理：2027年4月
- 6)最終報告書提出：2027年7月

(2)業務量目途

- 1)業務量の目途 約20.42人月
- 2)渡航回数を目途 延べ10回

なお、上記回数は目途であり、回数を超える提案を妨げるものではありません。

(3)現地再委託

以下の業務については、業務対象国・地域の現地法人(ローカルコンサルタント等)への再委託を認めます。

- 気象・水理・水文調査
- 地形測量
- 地質調査
- 交通量調査
- 環境社会配慮調査

(4)配付資料／公開資料等

1)配付資料

- 環境社会配慮カテゴリB 報告書執筆要領(2025年9月)

2)公開資料

- ラオス国国道9号線橋梁改修計画準備調査

(JICA 報告書 PDF 版 (JICA Report PDF))

- [ラオス国橋梁維持管理能力強化プロジェクト事業完了報告書 \(12385068.pdf\)](#)

(5)対象国の便宜供与

概要は、以下のとおりです。

	便宜供与内容	
1	カウンターパートの配置	有
2	通訳の配置	無 ※ CPとの間では英語可ですが、プロジェクトサイトでのコミュニケーションはラオス語となります。
3	執務スペース	有
4	家具(机・椅子・棚等)	有
5	事務機器(コピー機等)	有
6	Wi-Fi	有

(6)安全管理

現地業務期間中は安全管理に十分留意してください。現地の治安状況については、JICA ラオス事務所などにおいて十分な情報収集を行うとともに、現地業務の安全確保のための関係諸機関に対する協力依頼及び調整作業を十分に行うこととします。また、同事務所と常時連絡が取れる体制とし、特に地方にて活動を行う場合は、現地の治安状況、移動手段等について同事務所と緊密に連絡を取る様に留意することとします。また現地業務中における安全管理体制をプロポーザルに記載してください。また、契約締結後は海外渡航管理システムに渡航予定情報の入力をお願いします。詳細はこちらを参照ください。

<https://www.jica.go.jp/about/announce/information/common/2023/20240308.html>

3. プレゼンテーションの実施

本案件については、プレゼンテーションを実施しません。

4. 見積書作成にかかる留意事項

見積書の作成に当たっては、「コンサルタント等契約における経理処理ガイドライン」最新版を参照してください。

(URL:<https://www.jica.go.jp/announce/manual/guideline/consultant/quotation.html>)

(1) 契約期間の分割について

第1章「1.競争に付する事項」において、契約全体が複数の契約期間に分割されることが想定されている場合(又は競争参加者が分割を提案する場合は、各期間分及び全体分の見積をそれぞれ作成してください。

(2) 上限額について

本案件における上限額は以下のとおりです。上限額を超えた見積が提出された場合、同提案・見積は企画競争説明書記載の条件を満たさないものとして選考対象外としますので、この金額を超える提案の内容については、プロポーザルには記載せず、別提案・別見積としてプロポーザル提出時に別途提出してください。

別提案・別見積は技術評価・価格競争の対象外とし、契約交渉時に契約に含めるか否かを協議します。また、業務の一部が上限額を超過する場合は、以下の通りとします。

- ① 超過分が切り出し可能な場合:超過分のみを別提案・別見積として提案します。
- ② 超過分が切り出し可能ではない場合:当該業務を上限額の範囲内の提案内容とし、別提案として当該業務の代替案も併せて提出します。

(例)セミナー実施について、オンライン開催(上限額内)のA案と対面開催(上限超過)のB案がある場合、プロポーザルでは上限額内のA案を記載、本見積にはA案の経費を計上します。B案については、A案の代替案として別途提案することをプロポーザルに記載の上、別見積となる経費(B案の経費)とともに別途提出します。

【上限額】

83,114,000円(税抜)

※ 上記の金額は、下記(3)別見積としている項目、及び(4)定額計上としている項目を含みません(プロポーザル提出時の見積には含めないでください)。

※ なお、本見積が上限額を超えた場合は失格となります。

(3)別見積について(評価対象外)

以下の費目については、見積書とは別に見積金額を提示してください。下記のどれに該当する経費積算が明確にわかるように記載ください。下記に該当しない経費や下記のどれに該当するのかの説明がない経費については、別見積として認めず、自社負担とします。

- 1)直接経費のうち障害のある業務従事者に係る経費に分類されるもの
- 2)上限額を超える別提案に関する経費
- 3)定額計上を指示された業務につき、定額を超える別提案をする場合の当該提案に関する経費

(4)定額計上について

■本案件は定額計上があります(23,000,000円(税抜))。

以下の費目を定額計上とします。定額計上分は契約締結時に契約金額に加算して契約しますので、プロポーザル提出時の見積には含めないでください。

また、プロポーザルの提案には指示された定額金額の範囲内での提案を記載ください。この提案はプロポーザル評価に含めます。定額を超える別提案をする場合は別見積としてください。その場合、定額の金額のまま計上して契約をするか、プロポーザルで提案のあった業務の内容と方法に照らして過不足を協議し、受注者からの見積による積算をするかを契約交渉において決定します。

定額計上した経費については、証拠書類に基づきその金額の範囲内で精算金額を確定します。

	対象とする経費	該当箇所	金額(税抜き)	金額に含まれる範囲	費用項目
1	気象・水理・水文調査	第2章 特記仕様書案 第6条 再委託	3,000,000 円	調査費一式	現地再委託費
2	地形測量	第2章 特記仕様書案 第6条 再委託	5,000,000 円	調査費一式	現地再委託費
3	地質調査	第2章 特記仕様書案 第6条 再委託	8,000,000 円	調査費一式	現地再委託費
4	交通量調査	第2章 特記仕様書案 第6条 再委託	2,000,000 円	調査費一式	現地再委託費
5	環境社会配慮調査	第2章 特記仕様書案 第6条 再委託	5,000,000 円	調査費一式	現地再委託費

(5)見積価格について

各費目にて合計額(税抜き)で計上してください(千円未満切捨て不要)。

(6)旅費(航空賃)について

効率的かつ経済的な経路、航空会社を選択いただき、航空賃を計上してください。

払戻不可・日程変更不可等の条件が厳しい正規割引運賃を含め最も経済的と考えられる航空賃、及びやむを得ない理由によりキャンセルする場合の買替対応や変更手数料の費用(買替対応費用)を加算することが可能です。買替対応費用を加算する場合、加算率は航空賃の10%としてください(首都が紛争影響地域に指定されている紛争影響国を除く)。

(7)機材について

業務実施上必要な機材がある場合、原則として、機材費に計上してください。競争参加者が所有する機材を使用する場合は、機材損料・借料に計上してください。

(8)外貨交換レートについて

JICA ウェブサイトより公示月の各国レートを使用して見積もってください。

(URL:https://www.jica.go.jp/announce/manual/form/consul_g/rate.html)

(9)ランプサム(一括確定額請負)型の対象業務

本業務においては、「第2章 特記仕様書」で指示したすべての業務を対象としてランプサム(一括確定額請負)型の対象業務とします。

別紙:プロポーザル評価配点表

プロポーザル評価配点表

評価項目	配点	
1. コンサルタント等の法人としての経験・能力	(10)	
(1)類似業務の経験	6	
(2)業務実施上のバックアップ体制等	(4)	
ア)各種支援体制(本邦/現地)	3	
イ)ワークライフバランス認定	1	
2. 業務の実施方針等	(70)	
(1)業務実施の基本方針、業務実施の方法	65	
(2)作業計画等	(5)	
ア)要員計画	-	
イ)作業計画	5	
3. 業務従事予定者の経験・能力	(20)	
(1)業務主任者の経験・能力/業務管理グループの評価	業務主任者 のみ	業務管理 グループ/体制
1)業務主任者の経験・能力: <u>業務主任者/〇〇</u>	(20)	(8)
ア)類似業務等の経験	10	4
イ)業務主任者等としての経験	4	2
ウ)語学力	4	1
エ)その他学位、資格等	2	1
2)副業務主任者の経験・能力: <u>副業務主任者/〇〇</u>	(-)	(8)
ア)類似業務の経験	-	4
イ)業務主任者等としての経験	-	2
ウ)語学力	-	1
エ)その他学位、資格等	-	1
3)業務管理体制	(-)	(4)